

# 山寺通信

## 鶏谷山花栄寺だより

### 今号の記事:

- 観音様をいただく生活

- 子どもの声が響くお寺
- 行持報告
- 秋季彼岸会
- 大般若法要
- 親睦旅行
- 開山忌

## 観音さまをいただく生活

6月にペット観音の開眼法要を厳修いたしました。すでにご案内のとおり、花栄寺の北側高台に小さな観音様をお祀りし、そこをペット供養墓とさせて頂きました。ちょうどお寺を下に眺める場所です。寺に住む私たちは観音様に見守られながら生活させて頂き、有難く、自ずと手が合わさる日々です。

改めて、ロケーションの良さに驚いています。田舎方面に双子の山を望む様子には、遥かインドの象頭山を連想します。象頭山(ぞうずせん)とは、仏在世の頃隆盛を誇ったマガダ国にあったウルヴェーラ村の山です。象頭山近辺にはカッサパ三



弟子とともに彼らを改宗させました。こうして初期の仏教教団は一気に人々の注目する存在となったのです。

その時の教えは「火が燃えている」というものでした。火とは、熱をもった実際の火であると同時に、心の中で燃えさかる煩惱の火でもありま

す。心の火を消すこと無しには、いくら目前の火に祈ったところで本当の平安を得ることはできない。「むさぼり」、「いかり」、「おろかさ」の火が燃えさかっているから、心は苦しいのです。ブッダはそこを指摘されたのでした。

煩惱の炎から離れるためには、心のトレーニングが必要です。それが坐禅であり、日々の修養です。そして、静まり清らかになった心に慈悲の光は灯るのです。観音様のお姿は、私たちの苦しみを抜き喜びを与えて下さる慈悲のお姿であり、私たち自身が到達する理想像でもあります。折しも12月8日は人間シッダッタがお悟りをひらかれブッダ(覚った者の意味)となられた日です。古人のなされた精進を思い返して、毎日を務めてまいりたいものです。



曙光の中に浮かぶ観音様のお姿

兄弟が住み、火の儀式をして人々の信仰を集めていました。後にブッダに帰依したマガダ国のビンピサーラ王も信者でした。ブッダはお悟りをひらかれた後に彼らの元を訪れ、教化し、三兄弟の千人の

## 子どもの声が響くお寺

今年も、子供たちのグループを受け入れました。

7月28日～30日、「運動あそび塾しらさん家」の子どもたち7名がお寺に泊まり、自然体験を深めて行きました。1WEEK CAMPの中二日の滞在で、3日目は黒姫を越えて高柳に向かいました。

8月3日、野田地区子ども会があり、お寺を会場にバーベキューをしました。親子で親睦を深めることができました。

8月20日～21日、曹洞宗徒弟研修会を開催。曹洞宗寺院の子弟が7名(うち2名は日帰り)坐禅や朝課に取り組みました。鶴川遊びや星空観察会など、楽しい行事も満載の二日間でした。



徒弟研修会の一コマ

## 秋の行事報告

### 秋季彼岸会 9月23日(火)

法要前の催しとして「詩歌の会」の皆さんによる詩の朗読と、昨年御縁をいただいた北園町の阿部喬(たかし)さんの三味線演奏を企画いたしました。詩はヴァイオリンとピアノの伴奏に合わせて朗読し、美しい音色にひと時耳を傾けました。

### 大般若法要 10月13日(月)

心理カウンセラーの富田富士也さんを招いて講演会「子ども叱るな来た路じゃ年寄り笑うな往く路じゃ」を開催し、その後大般若法要を厳修しました。「還(かえ)る家＝自分を丸ごと受け止めてくれる存在」の大切さを学んだひと時でした。小雨の中大勢の皆さんが集まって下さり、恒例のコーヒーと焼きそばの振舞いを楽しんで行かれました。ローソン田中店が特別出店し、賑やかな一日となりました。法要



愛情のある言葉に、あちこちから笑いと涙が

後、手作り祈祷札をお配りしましたが、残りがまだ少しありますので、ご希望の方に差し上げます。

### 親睦旅行 10月26日(日)～27日(月)

大本山總持寺と大雄山最乗寺拝登の旅に行ってきました。初日、總持寺様をお参りした後は横浜中華街で円卓を囲んでの夕食会を設けました。翌日、富士山を眺めながら大雄山を拝登し、花栄寺につながる法の足跡を踏みしめてまいりました。19名の参加者の皆さん、お疲れさまでした。



大本山總持寺様受付にて

### 開山忌 11月2日(日)

御開山・曇芳文誉大和尚様の祥月命日の法要をお勤めしました。492回忌となった本年は、第三宗務所青年会に応援していただき、曹洞宗の儀則に則った厳かな法要を営みました。旅行の直後ということもあり、感慨深い法要でありました。